



1925年(大正十四年)七月十二・三日

會謝感念記號三百第三研究之書聖

感謝會

七月十二日(日)午後三時より講堂に於て開かる。遠近より來る者二百名以上(岩手、新潟、兵庫、栃木、茨城、千葉、長野)初夜より讀者は二十名以上ありつた。

讚美歌、聖書朗讀、祈禱の後

内村先生は、公榮の辭に題し、研究誌に加ありし神の恩恵の數々を列擧する。次に大嶋先生の述懐、來會者數名の感謝があつた六時一先づ閉會。

有志懇話會

七時より開かれ、感謝文々續き、研究誌に由りて死せる人々の美あしき事實、談に接しては一同嚴肅の感に打原た。九時愛惜の間に閉會。

慰勞方晚餐會

翌十三日、内村先生に對する慰勞の爲に塚本、坪上両先生並に教友有志の發起する晚餐會は上野精養軒に於て盛大に開かれ、上回はそれである。